

親展第三十八号

外務卿伯爵 井上 馨

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿

沖繩県ト清国福州トノ間ニ散在セル無人嶋久米赤島外二嶋沖繩県ニ於テ实地踏査ノ上國標建設ノ儀本月九日附甲第三十八号ヲ以テ御協議ノ趣致熟考候処右嶋嶼ノ儀ハ清国々境ニモ接近致候儀ニ踏査ヲ遂ケ候大東嶋ニ比スレハ周回モ小サキ趣ニ相見ヘ殊ニ清国ニハ其嶋名モ附シ有之候ニ就テハ近時清国新聞紙等ニモ我政府ニ於テ台湾近傍清国所屬ノ嶋嶼ヲ占拠セシ等ノ風説ヲ掲載シ我國ニ對シテ猜疑ヲ抱キ頻ニ清政府ノ注意ヲ促シ候モノモ有之候際ニ付此際遽ニ公然國標ヲ建設スル等ノ処置有之候テハ清国ノ疑惑ヲ招キ候間差向实地ヲ踏査セシメ港灣ノ形状并ニ土地物産開拓見込有無等詳細報告セシムルノミニ止メ國標ヲ建テ開拓等ニ着手スルハ他日ノ機會ニ讓候方可然存候且曩ニ踏査セシ大東島ノ事并ニ今回踏査ノ事共官報并ニ新聞紙ニ掲載不相成候方可然存候間夫々御注意相成置候様致度候右回答旁拙官意見申進候也

追テ御差越ノ書類及御返付候御落手相成度候也

無人島へ國標建設ニ関シ沖繩県令へノ指令案協

議ノ件

秘第二一八号ノ二

別紙之通無人島へ國標建設之儀ニ付沖繩県令ヨリ伺出候処右ハ予メ御意見ノ趣モ有之候ニ付左按之通及指令度候該按未書登載且御捺印之上附屬書類共御返却相成度此段及御照会候也

明治十八年十一月三十日

内務卿伯爵 山 泉 有 朋

外務卿伯爵 井上 馨 殿

指 令 按

書面伺之趣目下建設ヲ要セサル儀ト可心得事

年 月 日

兩 卿

(下ケ札)

(未書)

降屬品ニ函添付ス

(附屬書)

管下無人嶋ノ儀ニ付兼テ御下命ノ次第モ有之取調為致候処今般別紙ノ通復命書差出候該嶋國標建設ノ儀ハ嘗テ伺書ノ通清国ト關係ナキニシモアラス万一不都合ヲ生シ候テハ不相濟候ニ付如何取計可然該至急何分ノ御指揮奉仰候也

明治十八年十一月二十四日

沖繩県令 西 村 捨 三

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿

魚釣嶋外二嶋巡視取調概略

魚釣嶋久場島及久米赤島实地視察ノ御内命ヲ奉シ去十月二十二日日本県雇汽船出雲丸ニ乗組官古石垣入表諸嶋ヲ経テ本月一日無着同行ノ十等属久留声八警部補神尾直敏御用掛藤田千次巡查伊東祐一同柳田弥一郎ト共ニ掃港セリ依テ該視察ニ係ル取調概略左ニ并陳ス  
魚釣嶋

是ハ石花石ナリ此類最モ海浜ニ多シ各種アリ就中色蝕明ナルヲ撰ヒシナリ

第五

是ハ輕石ナレハ無論火山性ノモノトス然レトモ此ハ他ヨリ漂着セシモノト察セラル教甚々僅々ナレハナリ

第六

是ハ船釘ナリ何時カ船船ノ漂着シテ木材ハ既ニ朽チ釘ノミ残リタルモノト見ヘ今ハ酸化シテ海浜ノ岩石ニ凝結ス其数甚々多シ亦怪ムヘシ  
該嶋ハ本邦ト清国トノ間ニ散在セルヲ以テ所謂日本支那海ノ航路ナリ故ニ今モ各種ノ漂流物アリ則チ小官等ノ目撃セシ物ハ或ハ琉球船ト覺シキ船板帆樑或ハ竹木或ハ海綿漁具竹ニテ製シタル浮等是ナリ就中最モ目新シク感シタルハ長式間半許巾四尺許ノ伝馬船ノ漂着セシモノナリ耶甚々奇ニシテ嘗テ、是聞セサルモノナレハ之ヲ出雲丸乗組人ニ問フニ曰ク支那ノ通船ナリト答ヘリ

第一

是ハ赤砂状ノ土中ニ著シキ層ヲ成シタルモノ也

第二

是ハ渣滓状ノ石層中所々ニ粘着セルモノナリ

第三

是ハ洲ヨリ変性セシ巨大ノ石層中ニ粘着セルモノナリ

第四

手ニ三羽左手ニ二羽ヲ攫テ以テ揚シ得色或ハ卵ヲ拾フ等各自思々ニ  
生擒或ハ撲殺射殺拾卵等我ヲ忘レテ為セトモ更ニ飛去スルヲナケレ  
ハ暫時數十羽數百卵ヲ得タリ則チ携帶シ以テ高麗ニ供セシモノ是ナ  
リ此鳥海禽中最モ大ナルモノニシテ量凡拾斤ニ内外ス嗅氣アレト  
モ肉ハ食料ニ適スト云フ今書ニ就キ調フルニ *Diomedea* 属ニシテ  
英語ノ *Albatross* ト称スルモノナルヘシ蝙蝠ノ大ナル者ハ大東島等  
ニ均シク棲息スト想像スレトモ獸類ハ別ニ居ラサルヘシ

此島ハ彙ニ大城永保ニ就キ取調ハ実地踏査ノ上猶英國出版ノ日本台  
灣間ノ海圖ニ照ラスニ彼ノ *Hoa Pin su* ナル者ニ相当スル而シテ  
入表群島中外離島西端ヨリ八十三海里トス故ニ台湾ノ東北端ヲ去ル  
大凡百海里余・東洲島ヲ東ニ去ル大凡百十四海里余ナルヘシ其  
*Sau su* ヲ以テ久米赤島ニ当テタルハ全ク誤ニテ久米赤島ハ *Kaiein*  
*Rock* ニ当リ一礁ナルノ *Pinnacle* ヲ以テ久場島ニ当タルモ亦誤  
ニテ「ピンナツクル」ナル語ハ頂ト云フ義ニシテ魚釣群島中六礁ノ  
最モ屹立セシヲ言フモノナリ依テ彼是其誤ヲ正サンニ魚釣島ハ *Hoa*  
*Pin su* 久場島ハ *Sau su* 久米赤島ハ *Pueih Rock* ナルヘシ  
余ハ石垣島ヨリ雞膏番ヲ携帶シテ魚釣島ニ放チ以テ將來繁殖否ヲ試  
ム復他日ノ証ヲ殘サント欲スルノミ

久場島附久米赤島  
同日午後二時魚釣島ヲ謝シ久場島ニ向テ遂航暫クシテ其沿岸ニ接ス  
本島ハ魚釣島ノ東北十六海里ヲ隔テアリ先ツ上陸踏査セント欲スレ  
トモ惜ムラクハ日ハ西山ニ落ントシ時恰モ東北ノ風ヲ起シ倍ス強大  
ナラントス案外港灣ハナシ風ヲ避クル事能ハス隨テ端艇ヲ下ス事ヲ  
得ス凡遺憾傍觀ニ止ム依テ先其形状ヲ言ハンニ山ハ魚釣島ヨリ卑ケ

沖繩県大書記官 森 長 義 殿

別冊魚釣、久場、久米赤島回航報告書進達仕候也  
明治十八年十一月二日

沖繩県大書記官 森 長 義 殿  
日本郵船会社出雲丸船長 林 鶴 松

魚釣、久場、久米赤島回航報告書

右諸嶋ハ屢々外船モ往航シ其ノ景状ハ諸海路誌ニ詳悉セルヲ以テ今  
日時ニ報告ヲ要スルモノナシ請フ左ニ海路誌ノ記スル処ノ要旨ト聊  
カ実地踏査セシトコロヲ挙ケシ

本船ハ初メ魚釣島ノ西岸ニ航着シ其ノ沿岸三四「ゲイブル」ノ地ニ  
屢々測鉛ヲ試ミタルニ海底極メテ深ク且ツ其ノ淺深一ナラス四十乃  
至五十尋ニシテ客投錨ス可キ地アルヲ見シテ六礁ハ其ノ西岸凡ソ  
五六里内ニ併列シ礁脈ノ水面下ニ連絡スルカ如ク六礁ノ大ナルモノ  
ヲ「ピンナツクル」礁ト称シ其ノ形状絶奇ニシテ円錐形ヲ為シ空中  
ニ突出セリ右「ピンナツクル」ト本島間ノ海峡ハ深サ十二三尋ニシ  
テ自在ニ通航スルヲ得唯潮流ノ極メテ速カナルヲ以テ恐クハ帆船ノ  
能ク通過ス可キ処ニ非ラス

魚釣島ノ西北西岸ハ磯岸屹立シ其高サ千八百八十尺ニシテ漸ク其ノ東  
岸ニ傾下シ遠ク之ヲ望メハ水面上ニ直角三角形ヲ為セリ本島ハ極メ  
テ清水ニ富ミ其ノ東岸清流ノ横流スルヲ認メタリ海路誌ニ拠レハ其  
ノ沿岸ニ川魚ノ住スルヲ見タリト本島ハ那覇河口三重城ヲ距ル西七  
度南二百三十海里ニ在リ

レトモ同シク巨巖大石ヨリ成立タル嶋ニシテ禽類樹木モ異ナル事ナ  
シト認メラルルナリ然レトモ少ク小ナルヲ以テ周圍恐ラクニ二里ニ滿  
タサルヘシ是ヨリ船路久米赤島ヲ見シ事ヲ船長ニ約シ進航セシニ風  
ハ愈ヨ強キヲ加ヘ夜ハ暗黒ニシテ終ニ瞭然見ル事能ハサリシハ甚タ  
遺憾トス然レトモ久米赤島ハ到底洋中ノ一礁ニ過キサレハ農漁業ヲ  
當ミ或ハ將來植民等ヲ為スト念ハナカルヘシ幸ニ自今後先島航海ノ  
途次穩波ノ節実地ノ目撃ヲ期スルニアルニ

以上我沖繩近海ニシテ古來其在ヲ見認テ未タ航海ヲ為サス他日植民  
スヘキヤ否ノ考案ヲ貯ヘ今日ニ及ヒシ島嶼ハ先般踏査ヲ了セシ南北  
大東嶋ト共ニ五トス故ニ遠略ノ御計画ハ先ツ右ニテ一段落ニ惟タリ  
ト雖トモ海事水路局第十七号海圖ニ拠レハ宮古嶋ノ南方大凡二十海  
里ヲ隔テ「イキマ島」ト称シ長サ凡五海里巾ニ海里位ニシテ八重山ノ  
小浜嶋ニ近キモノヲ載セテ曰ク「イビ」等ハ此島ヲ探索ニ力ヲ尽セ  
シカ遂ニ見得サリント云フトアリ又英國出版ノ日本台湾間ノ海圖ニ  
モ *Tina* (*Daubul*) ト記シ以テ其有無格ノ間ニ置ケリ而シテ今回  
八重山島ニ到リ土人ノ言フ所ニ拠レハ往昔波照間島ノ一村民拳テ其  
南方ノ一島嶼ニ移転セリト其有無判然セサレトモ今ニテ南波照間  
島ト称シテ其子孫ノ連綿タル事ヲ信シテ疑ハスト云フ以上ノ二島ハ  
他日御機成可然申奉存候

右今回御内命ニ拠リ魚釣島外二島実地踏査ノ概略並ニ見取圖相添謹  
テ奉復命然頓首再拜  
明治十八年十一月四日  
沖繩県令西村捨三 代理  
沖繩県五等属 石 沢 兵 吾

沖繩県令西村捨三 代理

久場島ハ魚釣島ノ北東十六海里ニ在リ海中ニ屹立シテ沿岸皆十六十  
尺ニ内外シ其ノ絶頂ハ六百尺ナリ本島モ魚釣島ニ同シク更ニ船舶ヲ  
寄泊スヘキノ地ナシ

右二嶋ハ共ニ皆ナ石灰石ニ成リ暖地普通樹草ノ石間ニ茂生スルモ皆  
テ有用ノ材梁ナク其ノ魚釣島ノ各礁ノ如キハ僅カニ海艸ノ繁茂スル  
ノミ更ニ樹木アルヲ見ス特ニ海島(鳥)ノ群集スルハ各礁島極メテ  
夥シク魚釣島ノ如キノ清流ニ富ムモ其ノ地味恐クハ人住ニ適スル  
モノニ非ラス要スルニ右諸島ハ天ノ海島(鳥)ニ其ノ住所ヲ賦与シ  
タルモノト謂フモ可ナリ

本船ハ久場島ヨリ慶長間峽ニ直航セシニ以テ途上久米赤島ヲ認メン  
ト欲シ之ニ接航セシモ適ス夜半之ヲ航過シ當時殊ニ曇天暗黒ニシテ  
之ヲ実驗スルヲ得サリシハ誠ニ遺憾ナリ海路誌ニ拠レハ本島ハ一岩  
礁ニ過キスシテ其ノ位地東徑百二十四度三十四分北緯二十五度五十  
五分即チ那覇三重城ヲ距ル兩六度南百七十海里ニシテ四百嶋岸屹立  
シテ其ノ高サ二百七十尺遠ク之ヲ望メハ日本形船ノ装帆セシニ異ナ  
ラスト本島ハ外船モ屢々之ヲ認メタルモ其ノ位地ヲ報スル各ニ異ナ  
リ蓋シ其ノ黒潮ノ中流ニ孤立セルヲ以テ各船皆ナ其ノ推測ヲ異ニシ  
タルヤ必セリ

無人島へ國標建設ノ儀ニ就キ沖繩県令ヨリ伺出  
ニ対スル指令ニ関シ回答ノ件

親展第四十二号  
明治十八年十二月四日發遣  
外務卿伯爵 井 上 馨

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿  
沖繩県下無人島へ國標建設之儀ニ付沖繩県令ヨリ伺出ニ対スル指令ノ儀ニ関シ去ル十一月三十日附ヲ以テ右御指令案相添御照会ノ趣致承知候右ハ當省ニ於テモ御同見ニ候間別紙伺書ニ該案指令文記載且捺印ノ上附屬書類共及御還付候也

久場島、魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義  
秘別第一三三号

久場島魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義別帶甲号之通り沖繩県知事ヨリ上申候処本件ニ関シテ別帶乙号ノ通り明治十八年中貴省ト御協議ノ末指令及ヒタル次第モ有之候後廿日其當時ト今日トハ事情モ相異候ニ付別紙閣議提出ノ見込ニ有之候条一応及御協議候也  
追テ御回答ノ節別帶御返戻有之候度候也  
明治廿七年十二月廿七日

内務大臣子爵 野 村 靖 殿  
外務大臣子爵 陸 奥 宗 光 殿  
閣 議 提 出 案  
別紙標杭建設ニ関スル件閣議提出ス  
年 月 日

内閣總理大臣宛  
(別紙)  
沖繩県下八重山群島ノ北西ニ位スル久場島(原ノ)魚釣島ハ從來無

及上申置候ニ付去十月廿二日本県雇汽船出雲丸ノ先島航海掃路ニ於テ取調可致命ヲ含メ本県五等属石沢兵吾外両三名差遣シ候処別紙写之通復命書并ニ出雲丸報告書差出候依テ熟考スルニ最初清国ト接近スルノ疑ヲ抱キ何レニ属スルヤ否ニ到テハ甚タ不決断ノ語ヲ添へ上申候得共今回ノ復命及報告書ニ拠レハ勿論貴重ノ島嶼ニハ無之候得共地形ヨリ論スルトキハ即チ我八重山群島ノ北西ニシテ与那国島ヨリ遙ニ東北ニ位スレハ本県ノ所轄ト御決定相成可然哉ニ被考候果シテ然ハ大東島ノ例ニ倣ヘ本県所轄ノ標杭魚釣島久場島へ船便都合ヲ以テ建設致可然哉并ニ宮古島ノ南方ニ有之「イキマ」島及八重山島属波照間島ノ南ニ有之南波照間島ノ有無共雇汽船出雲丸ノ先島航ノ序ヲ以テ探究致可然哉前頭兩条何分ノ御指揮ヲ仰度此段上申候也  
明治十八年十一月五日

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿  
書面伺ノ趣目下建設ヲ要セサル儀ト可心得事  
明治十八年十二月五日

外務卿伯爵 井 上 馨 殿  
内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿  
甲 第 一 号  
魚 釣 島 外 二 島 ノ 所 轄 決 定 ニ 関 シ 伺 ノ 件

管下八重山群島ノ内石垣島ニ接近セル無人島魚釣島外二島ノ義ニ付十八年十一月五日第三百八十四号伺ニ対シ同年十二月五日付ヲ以テ御指令ノ次第モ有之候処右ハ無人島ナルヨリ是迄別ニ所轄ヲモ不相

人島ナレトモ近来ニ至リ該島へ向ケ漁業等ヲ試ムル者有之之カ取締ヲ要スルヲ以テ全県ノ所轄トシ標杭建設致度旨同県知事ヨリ上申有之右ハ同県ノ所轄ト認ムルニ依リ上申ノ通り標杭ヲ建設セシメントス  
右閣議ヲ請フ  
甲 第 百 一 十 一 号

久場島魚釣島へ本県所轄標杭建設之義ニ付上申

本県下八重山群ノ北西ニ位セル無人島久場島魚釣島之義本県所轄トシ大東島ノ例ニ倣ヒ本県所轄ノ標杭建設致度儀ニ付去ル十八年十一月五日第三百八十四号ヲ以テ上申仕候処同年十二月五日付ヲ以テ目下建設ヲ要セサル儀ト可相心得旨指令相成候処近來該島へ向ケ漁業等ヲ試ミル者有之取締上ニモ關係不尠義ニ付去ル十八年鑛々上申仕候通本県ノ所轄トシ其目標建設仕度候条至急仰御指揮度儀キノ上申書及御指令写相添へ此段重テ上申候也  
明治廿六年十一月二日

沖繩県知事 奈良原 繁 殿  
内務大臣伯爵 井 上 馨 殿  
外務大臣 陸 奥 宗 光 殿  
第三百八十四号

魚釣島外二島実地取調ノ義ニ付上申

本年九月第三百十五号ヲ以テ本県ト清国福州間ニ散在セル無人島ナル久米赤島久場島魚釣島ノ景況聞取書ヲ添へ先以テ実地視察可為致

定其儘ニ致置候処昨今ニ至リ水産取締ノ必要ヨリ所轄ヲ被相定度旨八重山島役所ヨリ伺出候次第モ有之旁此際管下八重山島役所々轄ニ相定度此段相伺候也  
明治廿三年一月十三日

知 事  
内務大臣宛  
明治廿八年一月十一日發遣  
親展第二号

外務大臣子爵 陸 奥 宗 光 殿  
内務大臣子爵 野 村 清 殿  
久場嶋及魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ件

久場嶋及魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義ニ付沖繩県知事ヨリノ上申書及明治十八年中全県へノ指令案相添へ各年十二月廿七日附秘別第一三三号ヲ以テ御照会ノ趣了承本件ニ関シ本省ニ於テハ別段異議無之候付御見込ノ通り御取計相成可然ト存候依テ右附屬書類相添へ此段回答申進候也  
内務省秘別一三三号ノ内  
明治廿八年一月廿二日

主査府県課長印  
県 治 局 長 印  
大 臣 印  
次 官 印  
外 務 大 臣 印